

■東京記念（SII）アラカルト（過去全 53 回の分析）

※第 1 回（昭和 39 年）から第 14 回（昭和 52 年）までは「東京オリンピック記念」の名称で実施

※第 1 回（昭和 39 年）から第 37 回（平成 12 年）までハンデキャップ競走として実施

※記録は平成 29 年 8 月 28 日時点

■単勝 1 番人気馬はそれなりに安定感あり

単勝 1 番人気馬は 20 勝、2 着 11 回、3 着 5 回で、勝率 37.7%、連対率 58.5%、3 着内率 67.9%とまずまず優秀な成績を収めている。なお、単勝 2 番人気馬は 8 勝、2 着 10 回、3 着 6 回で 3 着内率 45.3%、単勝 3 番人気馬は 10 勝、2 着 7 回、3 着 9 回で 3 着内率 49.1%だった。

■上位人気馬が 1～3 着を占めた例は 5 回

過去 53 回のうち 38 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めた。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 16 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフイニッシュ決着は 5 回ある。

■優勝を果たした馬の大半は馬齢が 4～5 歳

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 4 勝、4 歳が 22 勝、5 歳が 15 勝、6 歳が 7 勝、7 歳が 3 勝、8 歳が 2 勝となっている。4～5 歳でおよそ 7 割（69.8%）を占めている点に注目したい。

■牝馬は 4 勝、外国産馬は未だ優勝なし

牝馬の優勝例は第 29 回のドラールオウカン、第 30 回のホワイトシルバー、第 34 回のマキバサイレント、第 40 回のネームヴァリュート、計 4 回ある。なお、外国産馬の優勝例はまだない。

■騎手別の歴代最多勝記録は「7」

騎手別の勝利数を見ると、7 勝の的場文男騎手が単独トップ。2 位タイの石崎隆之騎手、内田博幸騎手、高橋三郎騎手、福永二三雄騎手（各 4 勝）を大きく引き離している。

■ 3 回以上の優勝例がある調教師はまだいない

調教師別の勝利数を見ると、2 勝の赤間清松調教師、岡部猛調教師、川島正行調教師、北川亮調教師、庄子連兵調教師、遠間波満行調教師、福永二三雄調教師、森下淳平調教師、矢野義幸調教師、矢作和人調教師、渡邊和雄調教師がトップタイである。

■ 優勝馬の大半は枠番が 3～6 枠

枠番別の勝利数を見ると、10 勝の 6 枠が単独トップ。5 枠が 9 勝で 2 位、3 枠と 4 枠が 8 勝で 3 位タイだった。また、馬番別の勝利数を見ると、3 番、4 番、5 番、7 番が 6 勝でトップタイとなっている。ちなみに、まだ優勝例がない馬番は 15 番と 16 番だけだ。

<伊吹雅也>